

# CAD/CAM用セラミックブロック応用による時短・効率化を 考慮したレイヤリングテクニック

○瓜生田 達也

兵庫県歯科技工士会

近年、歯科用 CAD/CAM システム（以下、CAD/CAM）の普及に伴ってクラウン技工におけるマテリアル（材料）の飛躍的な進歩がもたらされ、比較的容易に“審美的な補綴装置”の製作が可能になってきた。CAD/CAM を応用する事で作業時間の効率化が図られ、業界が抱えている長時間労働という問題に対して改善の兆しが見えつつあるものの、完全に改善するまでには至っていない。また現状として、各マテリアルに関する正しい知識や情報（耐久性、審美性、ブランク付着性等）について、チェアサイドとラボサイドとの間で的確なコミュニケーションが十分に図られてるとは言い難い。その結果として「オールセラミック」という言葉が独り歩きして、マテリアルの選択ミスに起因す

るクラウンの早期破折や、咬合性外傷による歯の欠損等の報告も近年見受けられるように筆者は感じている。

このような問題点を踏まえた上で、筆者は歯科医師と共に総合的な診査・診断を行ってマテリアルを適正に選択し、CAD/CAM による作業時間の効率化を図り（＝デジタル）、さらに先達が培ってきた、エビデンスに裏付けされた知識と技術（＝アナログ、トラディショナル）とを共存させることで治療のゴールを明確化して、患者の満足が得られるような臨床に取り組んでいる。本稿ではジルコニア強化型ケイ酸リチウムガラスセラミック（Suprinity；VITA）を用いて、前述したような認識のもとに取り組んだ臨床例を紹介する。